

夢の第一部

2024年6月28日第7号

西南中生徒指導部通信

文責 松浦

夢の第一部

郡市中体連大会が行われる週末で、こんなに雨が続いたときがあったかな？と過去を遡っても思い出せないほど、雨に見舞われた先週末でした。室内で行われる競技においても警報を気にしながら態度決定を待つことになりました。もちろん、屋外で行われる競技においては、順延を余儀なくされるものもあり、なかなか気持ちの準備が難しいものでした。西南中の野球部については、いよいよ明日が初戦となる予定です。じらされた中ですが、その分思い切り全力プレーを披露されることを願っています。

さて、本大会を終えた生徒にとって、夢が叶った人、叶わなかった人、様々だったでしょう。

「成功したら、夢が叶ったということ。」

成功しなかったら、夢の一部を生きたということ。」

努力は必ずしも結果に表れないけど、誰もが成長したはずですよ。結果はどうあれ、今までやってきたことは、あなたの「土台」として築かれているはずですよ。

昨日、3年生は糸山先生から進路選択に関するお話がありました。中体連後は、自分の進路に向かって努力する大事な時期です。後半戦に向かっての心構え等、『節目』である今、登山家のお話を紹介します。

多くの登山家は、世界一高いエベレスト登山を目標にしていると聞きます。ただし、その道のりはとても険しいもので、あまりにも過酷で苦しいものですから、山頂にたどり着いた瞬間、「もう思い残すことはない…」と思われる方が多いそうです。

実は、山に登って亡くなられる方の8割は、下山する際に遭難

するのだそうです。

だから、登山家は遭難しないために、山に登る前に、必ず「生きて帰る理由(成功した後、次に登る山の目標等)」を心に決めて登山するそうです。そうでないと、頂上に着いた後、すぐに燃え尽きてしまうそうです。

このことを学校生活に置き換えると、中体連以降がまさに下山にあたるかもしれません。中体連大会を目標にしていた人にとって、目標が終わり、「下山」を始めました。

下山の際に遭難する、学校生活でいうとどんなことなのか？

それは、「決まりを破るようになる」「やる気をなくしてだらだら遊んで過ごす」「授業中に集中せず、私語をしたり寝たりする」といったことではないでしょうか。

挑戦したい目標もなく、毎日楽でいたいことだけをして、守るべきものを平気で破っていると、心が遭難します。

皆さんが中体連大会に向けて努力を重ねて得たものはどんなものでしたか？何かを得ようとする時、苦勞せず手に入れようとか、効率的に楽しようとしても、大事なものは得られない、という経験をして十分認識していることでしょうか。

小事を大事にする(凡事徹底)、いわゆる小さなことを「ツツツ」と積み重ねることが、大きな夢を叶える唯一の方法だということを感じているはずですよ。

何も努力(動くこと)をせずに、大事なものを手に入れよう、身につけようなんて、そんな「不安定な生き方」を続けて、あなたの大事な「未来のつぼみ」を摘んでしまっただけではいけないのです。

水は流れているときはよごみませんが、流れが止まり、「水たまり」になると、よごみ始めます。

人も水と同じで、夢(水)に向かって進み(流れ)続けることが大事なのです。

これからも、あなたの大事な「夢の第一部」を生きたときなのです。